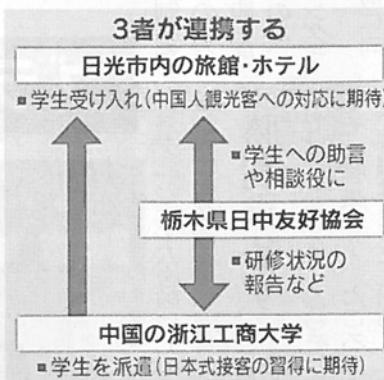


日光市のホテル・旅館

中国人研修生 通年受け入れ

栃木県日光市のホテル・旅館が中国人の大学生を研修生として通年で受け入れる取り組みを始める。3月から、まず奥日光小西ホテル（日光市）が2人を2ヶ月ずつインターナーシップ（学生の就業体験）として順に受け入れる。旅館側は増加が見込まれる中国人観光客に対応できる人員として期待する。受け入れ旅館は将来的には5施設ほどを見込んでいる。



中国人学生④の受け入れを通年に広げる（昨夏の研修）

栃木県日中友好協会（宇都宮市）と日光市内のホテル・旅館、中国・浙江省の浙江工商大学の3者が連携して始める。

日中友好協会（東京・千代田）によると、中国の大学生などを夏休みなど長期休暇中に短期留学の研修生として受け入れる例は長野県などにあるが、年間を通じて受け入れるのは初めてといふ。

浙江工商大で日本語を専攻しサービス業に関心を持つ学部生や大学院生が2人ずつ2ヶ月間をメドに研修に臨む。日光市内の2ホテルが昨年7～8月に同大の学生4人を研修生として受け入れたところ、双方に好評だったことから通年受け入れに結びついた。

3月1日から受け入れる奥日光小西ホテルは研修に受付業務や食事の

現地大と連携 観光客対応に期待

浙江工商大で日本語を専攻しサービス業に関心を持つ学部生や大学院生が2人ずつ2ヶ月間をメドに研修に臨む。日光市内の2ホテルが昨年7～8月に同大の学生4人を研修生として受け入れたところ、双方に好評だったことから通年受け入れに結びついた。

3月1日から受け入れる奥日光小西ホテルは研修に受付業務や食事の

配膳など幅広い仕事を経験する機会を提供する。

中国人宿泊客に対応する仕事もさせる予定で、絵内義勝副支配人は「通訳としての役割も期待できる」と話す。受け入れ終了後、本人の希望などを確認したうえで正規で雇用することも検討したい」という。

同ホテルに統いて、日光グリーンホテルズが運営する「日光ぐりんぼ